



M君と私

ある日、1歳児の保育室で子どもたちと遊んでいると、年長のM君が側にきて、一緒に遊び始めました。私が移動するところについてくるので、「どうしたの?」と聞くと、「先生と話がしたい。」と言うのです。いつも元気いっぱいのM君なので、「体調でも悪いのか」と心配になりました。以下、M君と私の会話です。

M君「園長先生になるためには、いっぱいお勉強をせんとダメなん?」

私「ん〜。お勉強はあんまりしてないけど、どうしたらみんなが楽しくなるかなっていつも考えてるよ。」

M君「じゃあ、どうやったら園長先生になれるん? お勉強せんでもなれるん?」

私「園長先生になりたいの?」

M君「恥ずかしそうにしながら「いやあ〜、そうじゃないけど…」」

私「園長先生になるためにはね、まず、子どもたちみんなが好き。大人も好き。遊ぶことや楽しいことが大好き。大好きがいっぱいあって、ちょっぴりお勉強をしたらなれるよ。M君が大きくなったらすいこうの園長先生になってくれると、嬉しいな。」

M君「わかった。考えとくよ。」

『虫クラブ』所属のM君。6歳の小さな心と頭のなかは、虫のことだけではなくて、いろいろなことに興味を持ち、いろいろなことを考えているのです。それを言葉にして伝え、対話を楽しんでいる姿は、あそびの中でしか培われない姿です。

私は、20年後のM君を想像し、ひとりでくすくすと笑ったのでした。



令和2年 9月の園だより



すいこう認定こども園

誰かのために!

今年は、コロナ禍の中で過ごすいつもとは違う夏でした。子どもたちとできる限りの感染対策に努め、プールもえのぐあそびも泥んこあそびもしっかり楽しみました。数少ないプールあそびでしたが、年長さんは、プールに入る前に牛乳パックとすのこ板でボートを作り、プールに浮かべて乗ってみました。手で何度も漕いでみるのですがなかなか進みません。すると、何人かの子どもたちが転覆しないようバランスを取りながら押し始めました。順番に乗せてあげながら、船頭さんのように押してあげることに専念する子どももいました。年中さんは、ペットボトルをテープで巻いて、油性マジックで模様をつけたビート板を作って、プールあそびを楽しみました。年少さんは、絵の具を溶いて作った色水を凍らせて、氷ペンで絵の具あそびを楽しみました。「早く描かなくちゃ、溶けちゃうね」などさまざまな発見があったようです。今年の夏は、いつもとちょっぴり違うけれど、いつもの夏より楽しい学びがたくさんあった夏でした。

今年の年長組男子は、虫が大好きな子どもが多く、『すいこう虫クラブ』ができています。『虫クラブ』の活動内容は、お部屋で飼育しているカブトムシやクワガタのゼリーの入れ替えなどのお世話はもちろん、わからないことがあれば図鑑で調べてみんなに教えてあげたり、小さい子どもたちにカブトムシなどを見せてあげたりなど広報活動をしています。先日は、虫がちょっぴり怖いけど気になっている2歳児組にカブトムシの飼育ケースをもっていき見せてあげました。『虫クラブ』のお兄さんがカブトムシの説明をした後で、「触りたいお友だちは、順番に並んでね」と言うと、わんぱく2歳児さんは、ちゃんとお兄さんの言うことを聞いて順番に触らせてもらっていました。お盆休みには、おうちに持って帰ってお世話をすることを申し出る部員もおり『虫クラブ』の子どもたちの責任感、優しさ、熱意を嬉しくまた、頼もしく思っています。

年長さんの頼もしい姿は、『虫クラブ』の子どもたちだけに見られるのではなく、朝の給食のお手伝いの時は、キュウリを切りながら「赤ちゃんも食べるから小さく切ろうね」など、そこにはいないお友だちに心を馳せています。「お当番だからお休みしないようにしなくちゃね。」とおうちの方に話している子どももいるほどです。また、縦割り活動の中でも小さい友だちへ優しく声を掛けたり、片付けを手伝ってあげたりなどさりげなく丁寧に関わっている姿を見ることがたくさんあります。あそびの中でも駒回しや鉄棒など、ちょっぴり難しい目標を自分で決めて、最後までやり遂げようとする姿、また友だち同士で教えてあげたりする姿がよく見られます。それらの活動を通して、仲間の意見を聞いたり、協力したりする力もついていますが、何より「誰かのために何かをする」と言うことに喜びを感じていることを嬉しく思っています。

子どもたちは、お手伝いが大好きです。2歳児さんは、毎朝おやつを乗せたワゴンが部屋の前に来ると、牛乳やコップなどを部屋の中に入れてくれます。「ありがとう。とっても助かったよ。」と担当が言うと、満足そうです。1歳児さんもお片付けの時に「この絵本、お片付けできるかな」と声をかけると、ちゃんと絵本だなにしまってくれます。

誰かの役に立ち、褒めてもらうという経験を繰り返すことによって、家庭では、「大切な家族の一員なんだ」と思い、また園では、自分を認めてもらっていると確信し、自分を好きになります。自分を好きになった子どもは、周りにいる人たちを好きになり、そして周りの人たちから愛されていることを実感し、乳幼児期に育てておきたい自己肯定感を身につけることができるのだと思っています。

今年も、少しずつ運動会に向けての活動が始まりますが、コロナ感染予防のための工夫が必要かと思えます。詳細が決まり次第お伝えいたしますので、どうぞご理解とご協力をよろしくお願い致します。

園長



敬老の日は昭和41年から国民の祝日(9月15日)に加えられた祝日です。現在では、9月の第三月曜日に設定されています。

「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけではなく、すべての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

園では、子どもたちに「おじいちゃん、おばあちゃんがいたから、お父さんお母さんが生まれ、自分たちがいるんだ」ということを伝えています。

お年寄りを尊敬し、大切にしたい気持ちが育って欲しいと願っています。



秋分の日 9月22日

「先祖を敬い、亡くなった人々を偲ぶ日」として制定されました。この日は昼と夜の長さが同じになり、この日を境に昼間がだんだん短くなります。この日ははさんで一週間を“彼岸”といい、お墓参りなどをして先祖を祭る習慣があります。

